

行政のサポートが足りない貧しい地域の保育園に、皆様からの支援物資を届けました。

支援物資を届けたカワグ再定住地域保育園は、カワグ中央保育園の分校で行政のサポートが行き届かず、この地域にある7つの保育園の中では唯一のエアコンがない保育園でした。当初は保育園の先生から「知育玩具や絵本が足りていません。もしNEKKOがこれらを持っていたら支援をして下さい。」という要請があり、子供たちが学ぶ時間に訪問したのがきっかけです。4歳5歳のかわいい子供たちが、小さな扇風機一つだけの教室で汗をかきながら歌の練習をしていました。つい先日、絵本や知育玩具を届けた別の保育園は寒いぐらいエアコンが効いていましたが、なぜここは扇風機??まだ暑さのコントロールが難しい幼児にはエアコンは必須のはずで、全ての保育園にはエアコンが設置してあるはずです。なぜ??…その事情は深刻でした。先生は「この保育園は分校です。本校にはエアコンも教材も届くのですが分校には新しい教材もエアコンも後回しになります。ただ、暑すぎる場合は授業を止めて子供たちを帰宅させるように指示が出ています。」暑い時はエアコンがないので休園になるというわけです。全くの解決にならない事態でした。

同地域の村長に相談へ行きました。村長もこの保育園の暑さ問題を憂いでおり、少ない村の予算内でエアコンの購入に踏み切れない苦しい事情を話してくれました。とは言っても、気温が40度を越える日もあります。村長と先生たちとNEKKOで話し合った結果、月々の電気代を村自治会が負担し、エアコンの修理やメンテナンスを先生たちが担い、エアコン本体と設置はNEKKOが負担することになりました。保育園で学ぶ子供たちが暑さで苦しむことがないよう、暑さで休園にならないように、子供たちの笑顔が続くようにとの願いを込めてエアコンを設置しました。それと一緒に、長年に渡って当団体に支援者の皆さんから送って下さった玩具や英語の絵本も届けました。



エアコンを取付けました



皆様からの支援物資、英語の絵本やぬいぐるみを届けました



エアコン前で「ありがとう！」のポーズの園児たち



お気に入りのぬいぐるみの取り合い

子供たちは笑顔で学ぶ環境が出来ました。しかし、一つだけ問題が残っています。それが玩具を巡る仁義なき戦いです。NEKKOが届けた玩具の多くはぬいぐるみでした。このぬいぐるみに人気があるモノとそうではないモノがあり、それらの取り合いで争いになることが少なくないそうです。先生が困った顔で言いました。「ぬいぐるみに代わる知育玩具も支援して頂けませんか？」そこで皆様にお願いです。使い古しの知育玩具と英語の絵本を募集しています。直接、この保育園に届けますので、今なら個別にこの保育園の子供たちが受け取る様子の写真などをお返しできます。ご協力頂ける場合は、お手数ですがEメールでこちらまでお知らせ下さい。「nekko.cfp@gmail.com」お願いします。

皆さまのご支援に感謝いたします。賛助会員の皆さまに感謝いたします。

NEKKOは医療支援、少数民族支援、植林・森林保全事業、生計向上事業、女性の自立支援、学校教育の支援などの独自プログラムを長年にわたって実践しています。また日本からの現地訪問も積極的に受け入れて、誰でも参加できる活動を心がけています。NEKKOの活動は、皆様からの会費、支援、寄付によって運営されています。多くの方々のお問い合わせにより、ネットバンキングにも対応できるようになりました。下記の振込先の情報をご確認ください。**ゆうちょの当座預金口座**ですのでご注意下さい。皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

寄付金、義援金を隨時受け付けています。★会員になってください。★賛助会員を募集しています。(年会費)

個人…5,000円 企業…10,000円

銀行名	店名	店番	口座記号	口座番号	預金種目	金融機関コード	加入者名
ゆうちょ銀行	099店	099	0098-0	179028	当座	9900	CFP

寄付・義援金の領収書について、ご希望の項目で発行いたします。その旨、Eメールにてお知らせ下さい。

Nekko.cfp@gmail.com / kazuya1999@gmail.com までお願いいたします。

三木郵便局
料金別納
郵便
ゆうメール



特定非営利活動法人 NEKKO のフィリピンでの活動報告・お知らせ等会報在中



注:会報が不要な方は、お手数ですがEメールにてお知らせください。

特定非営利活動法人 NEKKO

〒673-0433 兵庫県三木市福井 2093-16
Mangahan Resettlement,Brgy:Mangan-vaca,
Subic,Zambales,Philippines
00794-60-2052 國際電話 63-919-967-7771
Email: nekko.cfp@gmail.com

注:NEKKOでは極限までの経費節約を慣行中です。
住所は支援物資送付用で、それ以外はEメールか電話(転送)での連絡をお願い致します。



1年の感謝と皆様の健康を祈る今年の手作りクリスマスカードは、アエタ族の子供たちと皆さんのご支援で心臓手術を成功させたカディンちゃんが作ってくれました。



今年のクリスマスカードは、この1年間に皆様の支援を受けた子供たちを集めて作りました。古着や学用品を受け取った子供たち、粉ミルクの支援を受けた子供たち、心臓手術の支援を受けた子供など、日ごろの感謝の気持ちをカードに込めました。カディンちゃんの手術に支援をして下さった方々には、特別にカディンちゃんの足跡で作ったカードをお届けしています。

支援者の皆様へ、2023年のご支援に感謝いたします。ありがとうございました。そして2024年も皆様と共に良い活動が続けられますように、心から祈っています。全ての皆様へ、メリークリスマス!!

カイル君はまだ見ぬ友達に出会うため、今日も奇跡を起こして生きています。

前回の会報で紹介したカイル君は、生後まもなく心臓手術をしなければ長くは生きられないと言われていました。しかし、ネグレクトの荒れた環境で育った彼は十分な医療を受けることなく、近所のヘルスワーカーに発見されるまで、人目を避けて暮らしていました。私の出会いは、行政が親権はく奪まで視野に入れた保護をする直前でした。そこからの顛末は前回の会報に詳しくあります。そのカイル君…、4月を見ることがないだろうとの余命宣告を乗り越えて、今日(11月第3週)も穏やかに生きています。当団体が保護人になったことで、家庭内ネグレクトは無くなり親権はく奪も回避できました。カイル君が今も生き続けていることは、彼を診察した医師には驚きで最近の写真を見て「以前よりも顔色が良くなっている。奇跡でも起きたのか…」と言われたぐらいです。カイル君は生きていることで奇跡を起こし続けているのです。この奇跡には2つの根拠があります。一つ目の奇跡は、日本のサプリ:バイオ・ノーマライザーの服用です。貧しいカイル君の家族は、医師が処方する高価な医薬を諦めて無償提供されるこれだけを服用しています。服用から8か月、カイル君の血中酸素濃度の数値は少しづつ上がっています。二つ目の奇跡、自分の命が長くないことを知っているカイル君が、今一番欲しいと思っているのは高価なおもちゃやおいしい食べ物ではなく、新しい友人と出会いことです。心臓に負担がかかるので長い時間歩くことができないカイル君は、いつも誰かが訪問してくれるのを自宅で待っています。まだ見ぬ友達と出会うことを楽しみにしながら、カイル君は今日も生きています。彼の心臓が動きを止める日は、近いかも知れず、奇跡が長く続くかも知れません。そんな瀬戸際ですが…、**カイル君のまだ見ぬ友達とは私のことだ!**と思われた方は、ぜひ連絡を下さい。あなたに会うことが彼の生きの力になります。下記のEメールでの対応になります。「nekko.cfp@gmail.com」までお知らせください。ぜひカイル君に会いに来て下さい。



外で遊ぶことがないカイル君には同年代の友達がいません。今も奇跡を起こして生き続けているカイル君に出会い、友達になってくれた日本の方々が数名いますが、まだまだ足りません。会いに来てください。

アエタ族のシングルマザーが自立するための農業を始めています！

“美味し過ぎる”大根のピクルス、ハバネロの食べるラー油の秘蔵レシピを教えて下さい！

激辛唐辛子、ハバネロ、ブートジョロキアなどの発芽率が高い種子も探しています。情報提供をお願いします！

広大な山肌を焼き、そこへバナナやイモ、キヤッサバなどの植えっぱなしでも育つ作物を育てるのがアエタ族の焼き畑農業です。この農業は毎日の生長観察は不要ですが、野焼きや作付け、収穫と運搬で重労働を伴います。この農作業には男手が必要で、これが夫に先立たれたシングルマザーを苦しめることができます。生きるために、焼き畑農業を続けるために、どこかで男手を得なければなりません。それが心無い再婚や、クズのような男を家に入れる苦渋の決断に繋がります。未亡人となったアエタの女性は焼き畑のために耐え忍んで生きなければならないのか？いや、女性が自立できる農業があるはずだ。この衝動が本プロジェクト「アエタ族のシングルマザーが自立するための農業」です。夫を失った若いシングルマザーが中心となって、女性でも無理なく収穫・運搬が出来る軽くて換金性の高い野菜を育てる実地研修をしています。焼き畑と違い日々の観察や灌水が欠かせない繊細な現代農業の実践です。昨年からアエタ族が植えたことがない新野菜（シロ菜・長ナス・大根・新種唐辛子など）に挑戦し、収穫や販売までを女性の手だけで行っています。女だけの農業で自立できる日を夢見て、心に傷を持つシングルマザーや独身の高齢女性らが集っています。



過酷な焼き畑農業は、男手が必須です

今、このプロジェクトが大きな壁に直面しています。小さい規模のデモ農場での収穫で自立を目指すため、単価が高い野菜を育てるか、採れた野菜を加工して製品にするしか収益を上げる方法がありません。そこでピクルスを作るために大根を植え、食べるラー油を作るためにハバネロを植えました。収穫は来年になりますが、それまでに特別なレシピ、秘伝のレシピを入手してまだフィリピンでは珍しい“美味し過ぎる製品”を作ることを考えています。フィリピンにある従来のレシピでは、簡単に作れるが美味し過ぎると見えるようなモノではなく、平凡な味になってしまいます。そこで、支援者の皆様にお願いがあります。美味し過ぎると太鼓判を押すような、「大根のピクルス」と、「ハバネロの食べるラー油」のレシピを教えて欲しいのです。日本とフィリピンで手に入る食材に違いがありますが、例え予定以上に美味し過ぎてもこれを大々的に商品化することは考えていません。あくまでも自分たちが育てた作物だけで製品化するものです。ご協力頂ける場合、お手数ですが下記のEメールまで連絡をお願いします。 nekko.cfp@gmail.com まで連絡をお願い致します。郵便は不可です。



多くの方々にフィリピンの絶滅危惧の天然塩の支援にご協力頂きました。

確実に塩を作り続けることが出来る体制が整いました。ありがとうございます。

生命の味がする天然塩作りが絶滅の危機に瀕している、と声を上げたのが前回の会報でした。あれから…、多くの方々にご支援を頂き、念願の海水を煮込むための鉄鍋(古式)を5つ入手することに成功しました。これで6つの鉄鍋を6つの家族で稼働する体制が整いました。継承を諦めていた家族もありますが、鉄鍋が手に入ったことで家政婦や洗濯の仕事を辞めて塩作りに専念する主婦や娘たちが出てきました。マングローブの原生林が育む希少な天然塩が、絶滅の危機から脱したと言えます。ご支援を頂いた皆様に、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございます。当団体では、引き続きこの塩作りを見守り様々な方法で協力していくつもりです。まずは12月から5月までの乾季に向けて、この塩作りの現場を訪問する旅をサポートします。現場の近くには無農薬野菜を作るリゾートホテルもありますので、過酷な環境が苦手な人でも最短3泊4日でこの現場を訪問することが可能です。行動によって支出の幅が変わってきますので、興味・ご関心をお持ち頂いた方は下記のEメールにてお知らせ下さい。一緒に塩作りをしましょう。 nekko.cfp@gmail.com まで連絡をお願い致します。



↑ “にしむら漢方医院”的西村院長先生が塩作りに来られました。

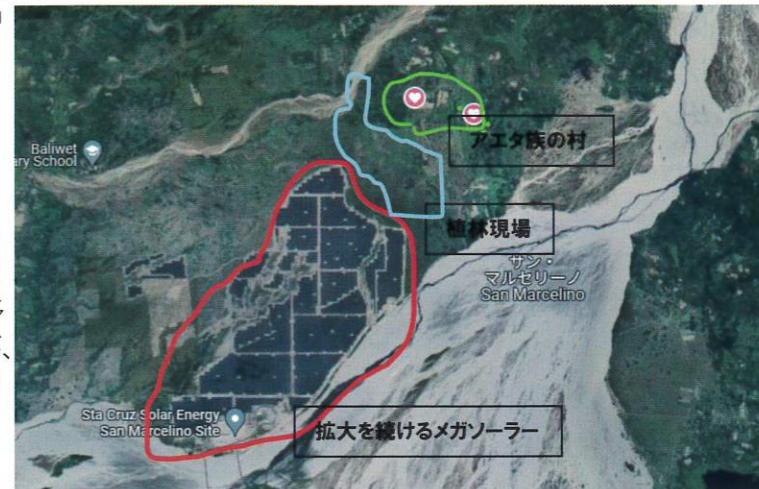


アンティークショップから5つの古式鉄鍋を入手しました。

「先住民族アエタがメガソーラーと共に存するための植林事業」を実施しています。

日本に居ながらでも植林ができるセンチュリーツリープロジェクトに参加しませんか？

アエタ族の聖域の村、カキリガンはピナトゥボ山の麓、道案内が一緒じゃないと辿り着けない火山灰砂漠の先、山の奥深い場所にあります。そんな僻地に中国のメガソーラーが迫っています。村との距離、わずか300メートル…。今でも狩猟採集の生活をしているアエタ族の聖域の村に、無機質なソーラーパネルの大群が迫っています。その規模20ヘクタール以上で、今も着々と増殖を続けています。この聖域の村は国が認めた先祖伝来の土地として保護されているはずの場所ですが、法はアエタ族を守ってくれませんでした。この乱開発の暴力は現在も進行中で、静かだったアエタ族の村にまで重機の音が聞こえるような状態です。このメガソーラーと戦うのではなく、共存することを選択したアエタ族と共に、当団体はメガソーラーと村を隔てる僅かな場所に木を植えて、森林の壁を作ろうとしています。この植林はイオン環境財団の支援を受けて2年目になります。ただ木を植えるのではなく、この状況を多くの人に知ってもらいたい、自然と共にアエタ族の暮らしを知ってもらいたい、木を植えることでメガソーラーと共存する方法がある、一人でも多くの人と木を植えたい、環境や人のために木を植える喜び、そんな思いや願いを込めて「日本に居ながらでも植林ができるセンチュリーツリープロジェクト」として実施をしています。



センチュリーツリープロジェクトに参加しませんか？

「センチュリーツリープロジェクト」では、日本に居るあなたとフィリピンのアエタ族が、リモートで植林を実施します。世紀を跨いでその場所にあり続ける願いからセンチュリーツリーと呼ぶココナツの苗木を植えています。日本に居ながら地球環境に寄与できる、個人レベルで二酸化炭素の削減に有効打を出せる、簡単に国際ボランティア活動に参加できる活動です。苗木を買うのはあなた、それを植えて育てるのはアエタ族の地主です。苗木を植える様子の動画、植えた後にアエタ族の仲間からの動画、写真、グーグルマップで現場の位置を確認できる座標情報をLINEやインスタグラム、Messengerでお届けしています。参加の方法は、この会報に同封した郵便局の振込用紙に、あなたの連絡先を記入して参加費用の苗木1本分2000円(何本でも可能!)を振り込んでください。連絡はメールとLINE、Messenger、葉書のみになりますが、寄付用紙の余白にいすれかを記入してください。担当者が直接連絡をいたします。それまでしばらくお待ち下さい。メールの場合は、kazuya1999@gmail.com nekko.cfp@gmail.comまでお願いします。



狩猟採集がアエタ族の日常です



これまでに1000を超えるココナツの苗木、3000を超えるマホガニーの苗木を植えています。

センチュリーツリープロジェクトに参加された方で、植林の様子が葉書やLINE等で届いていない方へ

大変なご心配をかけしています。申し訳ありません。暑さでカメラが熱暴走してデータが消えることがあります。植林自体は問題なく行っていますが、データが消えた場合は再度の植林を実施しています。その際に、植林中のお名前が混乱して、報告すべきが止まる事故がありました。こちらのミスですので、再植林に追加の料金は発生いたしません。植林の様子が葉書やLINE等で届いていない方は、お手数ですがEメールかMessenger、LINEにてお知らせ下さい。LINEのIDは「nekkokazuya」です。Eメールは「nekko.cfp@gmail.com」です。



私たちの活動現場を訪問しませんか？3泊4日6万円(航空運賃を含まない)から実現できます！

“私たちの活動現場に遊びに来ませんか？”

現在、私たちは現地訪問を受け付けています。最短は3泊4日で6万円からです。もちろん、最低金額の場合は活動現場やできること、宿泊宿が限定されますが、それでも十分に刺激的な体験ができます。これ以外にも、様々な形で現地訪問のアレンジをします。12泊13日というゲストも訪問されています。滞在日程や金額、行動内容、移動する場所などにもありますが、ゲストのご希望を聞いて、可能な限り楽しく、刺激的なプログラムを組み立てます。難しく考える必要はありません。ただ遊びに行きたい、アエタ族の村人と出会いたい、貧しい人々と遊びたい、患者さんのために尽くしたい、植林をしてみたい、国際ボランティアに参加してみたい、そんな単純な理由で良いのです。普通の旅行とは違って多くの学びある体験ができると信じています。詳細は個別に相談をしますので、まずは気軽にメールをください。

nekko.cfp@gmail.com LINEのIDは「nekkokazuya」です。インスタグラムは「ngo_nekko」で検索してください。Facebookは「Kazuya Tomita」で、温泉でスマホをいじるニホンザルがプロフィール写真です。ご連絡をお待ちしています。



行政に見捨てられたサンタマルタ小学校

発言権がない子供たちの予算が削られていく。予算の横流しで本校舎の建設が止まりました。



サンタマルタ小学校のプレハブ校舎

前回の会報で、「フィリピン政府が重い腰を上げて本校舎の建築を決断」と紹介しました。苦肉の策で NEKKO の支援者様の寄付と義援金を集めてプレハブ校舎の建築に着手しましたが、本校舎が完成すれば、このプレハブ校舎を使うことがないのかも知れない、と考えていました。実際にセメント作りの本校舎工事も始まり、大量の資材が運び込まれ、日々順調に作業が進んでいました。しかし…、

ある日を境に作業員が来なくなり、大量の資材も持ち去られ、中途半端な工事のまま本校舎の建築が止まりました。市長に聞いたところ、「そのうち再開するから待ってくれ。」としか言わない。雨季が始まり、作りかけの校舎には苔が生し、ツタが絡まって不気味な廃墟ならぬ校舎の残骸を晒しています。…つまり、サンタマルタ小学校の子供たちは 5 年も藁ぶき屋根の校舎で耐え忍び、台風で崩壊した後は木陰や廃墟で学んでいたというのに、また行政に見捨てられたのです。

NEKKO の支援者の皆様で建てたプレハブ校舎だけが、本校舎として機能している今現在、この校舎に問題が発生しています。短期間の運用予定だったため、強度が足りない、灼熱に耐える加工が成されていない、廊下が土間のまま、窓や扉がない、などが残されたままになっています。特に緊急性が高い強度の補強工事(柱になる鉄骨を追加)と屋根の耐熱工事(天井に耐熱フォームを張る)は 5 年生と 6 年生の部屋以外は完了しています。この 2 つの問題は数名の支援者様の志にてすでに改善がされています。しかし、それ以外の問題は取り残されたままです。



屋根裏に断熱フォームを差し込む工事

本校舎の建設が再開されるような情報はありません。あと何年待てば普通の校舎が建つか、全く見えない状態です。つまり、もう行政には期待ができないということです。現状では NEKKO が建設したプレハブ校舎を、長く使い続けるしか選択肢がありません。

もう二度と見捨てられることがないように、サンタマルタ小学校の子供たちだけが耐えなくても良いように、
サンタマルタ小学校の子供たちに会いに来てくれる仲間に求めています。
プレハブ校舎の補強工事に賛同して下さる仲間を募集しています

サンタマルタ小学校の子供たちに会いに来て下さい！

何度も続いた大人の裏切りでサンタマルタ小学校の子供たちは失望しています。子供たちをもっと笑顔にしたいのです。裏切らない大人がいるのだと、伝えたいのです。ぜひ、子供たちに会いに来てください。このプレハブ校舎と一緒に学び、遊んで欲しいのです。ここへ来るために、幾つかの注意点があります。まず、遠いこと。マニラから車で片道 6 時間を要します。NEKKO の活動拠点のスヌビックからでも 3 時間です。小学校ですので、土日は通学していません。時期によっては夏休みや学期末でお休みです。こちらの予定に合わせることは不可能です。これまで数組の仲間が会いに来てくれています。最短は 3 泊日の渡航でした。一例ですが、暑さ対策で日本から大量のうちわを持ってくれた仲間たちがいます。その時の様子を紹介します。サンタマルタ小学校の子供たちに会いに来てください。詳細は、nekko.cfp@gmail.com まで。



暑さ軽減で日本のうちわを持ってくれた支援者

サンタマルタ小学校の追加工事のご支援をお願いいたします。

ちょうど 1 年前に、NEKKO ではサンタマルタ小学校のプレハブ校舎建設のための募金を呼びかけました。資金難に陥ったり外部からの妨害圧力もありましたが、無事に校舎を建てることが出来ました。すぐ横では行政主導のコンクリ製本校舎の建設が始まっていました。私たちのプレハブ校舎は 1 年ぐらいの使用で、いずれは快適な本校舎へ移動するはずでした。しかし、行政は本校舎の建設を止めました。大人の都合だけで、子供たちを守ることを諦めたのです。行政がやらないなら、私たちがやりましょう。

今、フィリピンも異常気象で暑さや台風がとんでもないことになっています。行政に期待が出来ない今、私たちのプレハブ校舎しか子供たちを守る方法がありません。あと何年ぐらい使うのかも全く見えない中で、この気候に耐えることが出来るよう、幾つかの補強が必要です。再度、皆様の理解とご協力、ご支援を呼びかけます。

学校の授業を妨げないように工事をする必要があります。そのため項目を分けて、個々の募金目標金額が満額になった段階で工事をする計画です。皆様の理解とご協力、ご支援をお願いいたします。

補強①(最重要)天井の耐熱処理工事:

天井が無く、屋根はトタン板なので日中の灼熱を遮るモノがありません。緊急を要する低学年の教室は、日本の有志からの支援で施工済みですが、まだ 2 教室分が終っていません。施工日数 2 日。

募金目標金額 9 万円



補強②(かなり重要)窓と扉を作る工事:

急ごしらえのプレハブ校舎なので、切り抜きの窓は常にオープンで、風雨を防ぐことができません。鉄筋溶接で窓枠を作り、簡易的な窓蓋を取り付ける。6 教室分。施工日数 5 日。

募金目標金額 12 万円



補強③(やや重要)廊下の柱とコンクリ施工工事:

外廊下は土間で、柱は木材を縛り付けただけです。台風に耐えることは難しいし、雨が降ると教室に水が入り込みます。柱を鉄骨溶接し、土間をセメントにする。6 教室分。施工日数 5 日。

募金目標金額 20 万円



補強④(やや重要)間仕切りの設置工事:

このプレハブ校舎は低学年用の校舎になる予定で、あえて間仕切りを作らずにいました。しかし行政が本校舎の建設を止めたことで、全学級が使うことになり簡易的な間仕切りを作りました。隣の教室が見えないような、安全な間仕切りが必要です。5 枚分の間仕切り。施工日数 5 日。

募金目標金額 12 万円



補強⑤(あれば最高)各教室に壁掛け扇風機を 2 機設置:

暑さを物理的に避けるには風を送るのが一番です。この扇風機はサンタマルタ小学校の悲願でもあります。フィリピンの公立小学校では扇風機は必須として普通に設置がされています。行政に見捨てられたこの学校には、扇風機どころか電気のコンセントすらありません。行政がやらないなら、私たちがやめませんか？1 機 1 万円に電気の施工工事 5000 円です。各教室に 2 機設置をすると、合計で 12 機、総額 18 万円が必要です。一気に全教室に設置できるとは考えていません。一機づつの支援を積み重ねて、1 年ぐらいの時間をかけて全教室に設置出来ることが理想的です。

募金目標金額 1 万 5 千円 × 12 機 総額 18 万円



これらの支援について、領収書の項目やサンタマルタ小学校からのお令状、学校校舎へ何かメッセージを残すなど、ご相談いただければ対応いたします。過去に井戸の設置や校舎の改修等を支援して下さった会員様が、学校から正式なお令状を受け取っています。大きなこと(花火を上げたり、マスコミの取材等)はできませんが、支援者様と現地の小学校の双方が喜べることであれば、全力でサポートいたします。まずは、下記の E メールか、LINE、Messenger 等にて気軽に問合せください。

連絡先：
E メール nekko.cfp@gmail.com
LINE ID nekkokazuya
Messenger Kazuya Tomita →
Instagram ngo_nekko

皆様のご支援をお願いいたします！



カディンちゃんの手術が成功しました!

僧帽弁閉鎖不全症のカディンちゃんの命を繋ぐことに成功しました。

前回の会報で皆様に呼びかけたカディンちゃんの心臓手術の支援では「今年のクリスマスまでに手術の目途が立たない場合は、手遅れになります。」と切羽詰った状況を説明しました。これまで当団体では7人の子供の手術支援をしていますが、6か月以内に200万円を集める、という間に追われる支援をしたこと�이ありません。カディンちゃんのケースは緊急でした。主治医は心臓が肥大する速度が速いことを危惧しました。手術に耐えられる大きさまで6か月…。そこで、クリスマスまでに200万円が集まらなかったら(手術ができなくなる)、一度集めた寄付は全て元の支援者様に返金します、という縛りを設けて募金に挑みました。会報を発送してから数日で寄付が集まり始めました。全国から応援メッセージも届きました。そして3週間を待たずに満額を達成しました。その後も、カディンちゃんの手術支援の寄付は止まらず、その多くが返金を希望しない正に命に向き合う熱い志でした。皆様の志とご支援・応援に心から感謝をしています。ありがとうございます。

手術が出来る!この知らせはすぐに主治医とカディンちゃんの母親に伝えました。主治医は「手術は早ければ早いほど良い。優秀な執刀医を押さえて手術チームを作る。」との返事がありました。カディンちゃんの母親は電話口で嗚咽を漏らしながら泣いていました。「ありがとうございます。神様、ありがとうございます。日本の皆さん、ありがとうございます。」そこからは予想もしない早い展開の連続で、手術チームが用意され、手術に向けた診察・検査が続きました。手術費用の全額を前払いして支払ったのが8月24日の朝、そしてその午後には主治医から連絡があり、「急にキャンセルが出たので手術室に空きが出ました。2日後の手術予定です。」との連絡がありました。それから緊急で主治医の診療所で時間外の検診を受けて、引渡書と手術同意書にサイン。着替えを持ってマニラの専門病院に向かいます。入院予定時間は午前です。片道3時間半を要するスピーディーからなので、出発は深夜です。入院のためにPCR検査を受ける必要があります。朝一番に検査を受けるように指示がありました。普段は寝ているはずのカディンちゃん、深夜にも関わらず眼がぱっちり、不思議そうに辺りをきょろきょろ見えています。

【9月27日:手術】

手術当日になりました。予定では早朝、と聞いていましたが朝9時になっても何の指示も出ません。ただ待つようにとだけ。夕食が出る5時になって手術の準備が始まり、6時前に手術室に入るお迎えが来ました。

手術が終わった、との連絡がきたのがこの日の深夜です。手術は無事に終わりましたが、成功したのかは事後の検査で判明します。今は生還した、手術が済りなく終わった、執刀医は出来ることはやり尽くした、という状態です。カディンちゃんが麻酔から覚めるまで、我々は病院から離れて宿に戻りました。カディンちゃんのお母さん、顔面蒼白でただ祈るのみ、お父さん、心配でうろうろしている状態。翌日の午後に病院から連絡があり、カディンちゃんが目覚めたとのこと。ICUに近づけるのは1名のみ。お母さんが入りました。カディンちゃんは泣くこともなく、おとなしくしていたとのこと。まずは一安心です。退院まで療養して、問題が無ければ術後3日に退院です。日本では考えられないスピード入退院ですが、フィリピンでは普通のことです。

退院の日、まるで何もなかったかのようなカディンちゃんを見て一安心です。手術は当初予定していた術式から変わって、背中からの切開でした。その跡には小さなガーゼが張り付けてあるだけ、本当に大きな問題は無いようです。今日はマニラの病院から、彼らが住む町まで送迎しなければなりません。片道6時間…。その車内で、お母さんが不安から解放されていつもより饒舌になっていました。カディンちゃんの心臓に異常がある、高額な手術以外に助かる方法がないことを知った



退院の時に両親とカディンちゃんがありがとうございました。



手術後、麻酔から目覚めたカディンちゃん。
主治医が撮影したスマホから

時の気持ち。手術費用を集めなければならない時に自分の周囲の人々が無責任な楽観論を言っていたこと。カディンちゃんを助けるために祖父の土地を売ろうとしたが書類不備で競売にすら出せなかったこと。何度も希望と絶望を繰り返して人間不信になっていたこと。彼らが考える全てのことをしたこと。それでも何も変化がなく、絶望していた時にNEKKOの人々が現れたこと。タガログ語をしゃべる日本人に驚いて、疑う気持ちも一切なかったこと。その日から全てが良い方向に向かったこと。絶望していた時のことを忘れるくらい忙しくなったけど、不安が無かったこと。カディンちゃんが助かる、という確信があったこと。

私は日本の支援者の皆さんのこと話をしました。通常なら1年2年を要する手術費用の募金が、わずか3週間で満額を達成したこと。大口の資金提供者がいたこと。未成年の支援者もいること。ほとんどの支援者が返金を希望しなかった(手術が実施できると信じていた)こと。皆がカディンちゃんのことを思い、愛していること。まだ結果は出ていないが、皆が手術の成功を確信していること。車中は涙あり、笑いありのあつという間の6時間でした。

退院から2週間後、主治医の診察がありました。超音波検査で心臓の出血は塞がっていることが確認できました。あとは順調に心臓の肥大が縮小して正常な大きさに戻ることが確認できれば、手術の成功となるそうです。現段階では、異常なしの経過観察です。その1か月後、X線の結果と当日の超音波診断で心臓が順調に縮小して、ほぼ正常な大きさに縮小していることが確認できて手術成功が宣言されました。



手術後、実家に戻ったカディンちゃんと家族みんなによるありがとうございました。

現在、カディンちゃんは普通の暮らしに戻り元気に外を駆け回っているそうです。まだ投薬と定期検診は続けますが、命に関わるような事態は無いと思われます。皆様の支援と応援で命を繋ぐことに成功しました。これからも会報でカディンちゃんの経過をお伝えします。皆様の支援、応援に心から感謝をしています。一人の命を繋ぐことの大さな意味に賛同して下さったこと、心から感謝をしています。ありがとうございます。

現在、NEKKOで投薬支援と経過観察をしているファロー四徴症のドナリンちゃん(1歳)は、2年前に亡くなってしまったソフィアちゃんの従妹です。手術の直前だったのに、あの時に救うことが出来なかつたソフィアちゃんが帰って来たような… そんな運命を感じています。命は巡り、大切な人に繋がっています。

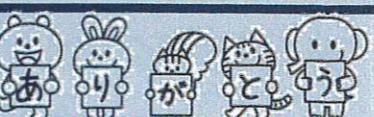
次回はドナリンちゃんの手術支援の呼びかけを致します。まだ経過観察中です。

「妹の赤ちゃんがソフィアと同じ心臓に穴が開いていて、それが二つだっ。」という連絡を受けました。2年前にNEKKOの支援で心臓手術を受けるはずだったソフィアちゃん(当時3歳)のお母さんからです。ソフィアちゃんはファロー四徴症で手術を受けるために虫歯の治療が必要でした。貧しい暮らしで虫歯だらけだったのです。隣州の総合病院に入院して、全身麻酔下で虫歯を抜歯したのですが、ソフィアちゃんは遺体になって出てきました。一気に17本の虫歯を抜いて、出血多量で死亡…。あの時、病院の駐車場で白布に包まれたソフィアちゃんを迎えた時の無念さや怒り、絶望、両親の涙が走馬灯のように思い出されました。



ドナリンちゃんのお母さんはメンタルに問題を抱えている(過食と拒食を繰り返す)ため、姉のソフィアちゃんのお母さんが付き添っています。

支援物資についてのお知らせ



医薬品・医療器具の支援物資を受け取り中止しています。

平素、支援物資を集めて送り届けて下さる皆様へ、現在、NEKKOでは医薬品・医療器具の受け取りを中止しています。これから送ることを検討していた方々は、お手数ですがその医薬を出された薬局へ持ち込んで過剰分がある旨を相談してください。引き取って貰える上、次回からの投薬の量を調整してくれます。しかし処方箋に基づいて処方された医薬は、余ったからといって返金を求める事はできません。

これまでの皆様のご厚意、志に心から感謝をしています。ありがとうございました。

子供服・大人服の古着が大活躍しています！

皆様が送って下さった古着は、大雨や台風があった後などに貧しい集落で着替えが足りない人々に配布しています。ただ、貧しい集落の多くは山奥の僻地にあることが多く、そこへ辿り着くために専用車の燃料費やアシスタントの日給が必要になります。そこで、皆様が送り届けて下さった古着の中から新品のモノや良品を選んでNEKKOの活動拠点で販売をしています。その収益が現場へ行くための費用になり、本当に困っている人々に確実に古着を届けることができるシステムになっています。



古着を販売して、山奥で配布するための交通費を捻出します。



山奥やスラム、僻地などの貧しい地域で必要に応じて（台風や洪水被害）配布しています。



古着を必要とし、喜んでくれる人々がいます。

知育玩具やぬいぐるみ、英語の絵本が大活躍しています！

貧しい地域の公立幼稚園や有志が主催する青空教室では、圧倒的に教材が足りません。部品が足りない知育玩具を使っていたり、ぬいぐるみが無かったり、英語の絵本はボロボロでページが取れています。町中の幼稚園と比べると不公平な状態です。行政がやらないなら、NEKKOがやりましょうということで教材が足りなくて困っている幼稚園や青空教室に、知育玩具や英語の絵本を届けています。



英語の絵本や教材、ぬいぐるみを貧しい幼稚園に届けました。



英語の本、チェス、教材などを本棚ごと山の貧しい小学校に届けました。



アエタ族の貧しい村にぬいぐるみを届けました。

皆様のご支援に感謝をしています。ありがとうございます。

支援物資の送り方にご注意ください。

大量の支援物資を直接現地へ送って下さる場合

民間の小口輸送会社（ドア to ドアと呼ばれる方式）を使って下さい。これは日本各地からのお荷物を、船便にてフィリピン各地に届ける宅配サービスです。会社によって専用の箱があるため、事前に個々の会社へお問い合わせして下さい。専用ダンボール箱を届けてくれます。梱包した荷物を専門業者が集荷に来てくれるのと、様々な手間は省けると思います。重さは50キロ以下と制限がありますのでご注意下さい。

荷物リストを作成する手間があります。この方法での輸送は、荷物の箱が大きくなる代わりに輸送費が高くなることです。様々な会社がありますが、当診療所では過去の経験からトランステック社（フリーダイアル：0120-988-890）のプレミアム（55cmx37cmx63cm）の箱、1つ11000円を利用することが多いです。「フィリピン Door to Door」で検索してみて下さい。いろんな会社がヒットします。

送り先の住所・宛名・電話番号をローマ字で記載する必要があります。

宛て名：St. Barnabas Maternity Center, Mangahan Resettlement, Brgy. Mangavaca, Subic, Zambales, Philippines

宛て名：Kazuya Tomita 電話：09199677771 Eメール：nekko.cfp@gmail.com



小規模の支援物資を送って下さる場合

国内事務局に送って下さい。年に2度の仕分けをして、再梱包の上で民間の小口輸送会社を利用して現地に送っています。その際には大変に恐縮ですが、仕分け梱包費、再輸送費としてミカン箱1つ程度の大きさに対して1000円～2000円程の費用負担をお願いしています。この負担金は支援物資の箱の中に現金か郵便切手を同封して下さい。また、荷物の大きさはミカン箱程度の大きさにして、重くないようご注意をお願いします。荷物の中継は高齢の者が一人で対応しています。大きい荷物や重い荷物は運搬だけでも重労働になります。支援者の皆さんに、余分な支出をお願いすることになり、非常に心苦しいことですが現状では民間の小口輸送会社を使うしか支援物資を送る方法がありません。そして、NEKKOには支援物資を再梱包して、輸送する人材はいますが、経費を捻出することができない状態です。

少しでも皆さまの負担を軽くするため、以下のことに注意をして下さい。

物資を厳選して下さい。緩衝材や現地で捨てても良いモノを送らないで下さい。箱を小さくして下さい。輸送料金は大きさに比例します。重さではありません。支援物資のおかげで助かった命があります。支援物資があつたから諦めずに頑張れた人もいます。これからも皆さまからの支援物資を大切にしていきます。

国内事務局への送り先：

住所：〒673-0433 兵庫県三木市福井 2093-16 電話：0794-60-2052（転送）

Eメール：nekko.cfp@gmail.com

宛て名：NEKKO、富田一也

注：支援物資の箱を重くしないようご注意をお願いします。

まだ使える靴やサンダルが大活躍しています！

お子様の成長が早く、まだキレイなのに使えないようになった靴やサンダルを捨てないで下さい。学校の上履きでも、名前が書かれても問題ありません。普段、裸足で過ごしている山の子供たちに贈ってみませんか？

貧しい暮らしの山の民は、普段から裸足でいることが多いのですが、それは裸足が楽だから、とか文化だから、という理由ではありません。単純に貧しくて靴が買えないのです。靴を持っていないわけではありません。その靴は、学校に行くときや街へ出るときに使う本当の一張羅なのです。もし、普段の暮らしへでも使える靴やサンダルがあれば、それはとても嬉しいことなのです。ボロボロになつた靴やサンダルではなく、まだ日本でも使える程度の良いものがあれば、山の子供たちに贈ってみませんか？

量が多い場合は個別で対応いたします。専用の写真や報告が可能です。ぜひEメールにてご相談下さい。



ひらがなで前の持ち主の名前が書かれた上履きのお古も、ここでは大切な一張羅になります。→

ビーチサンダルの支援